

村田きょうこ マンスリーレポート

<2025年2月号>



皆さま、ご安全に！村田きょうこです。

1月24日(金)から通常国会が開会し、31日から衆議院で予算審議が始まりました。衆議院の与党の議席数が過半数割れとなった昨年の臨時国会では、政府が提出した補正予算案が野党の求めに応じて修正されましたが、通常国会で審議される令和7年度当初予算は補正予算の10倍、約115兆円です。物価高で苦しい家計を支える予算になっているのか？予算の中身と金額をしっかりと議論してまいります。



1. 第217通常国会がはじまりました

6月22日(日)までの150日間の会期となる、今国会の特徴を取り上げてみました。

(1)提出予定法案数は閣法59本、条約13本

主な法案	
令和7年度予算案	一般会計 115.5兆円
税制関連法案	所得税の基礎控除引き上げ(48万円→58万円)
	大学生年代の子の親への特別控除の創設 (子の給与収入150万円→63万円、150万円超→段階的に引き下げ)
	子育て支援の拡充延長(子育て世帯に対する住宅ローン控除の拡充、生命保険料控除の拡充など)
年金制度改正法案	①被用者保険の適用拡大 ②在職老齢年金制度の見直し ③遺族年金制度の見直し ④私的個人年金(iDeCo)制度の見直し など
GX推進法改正法案*	①排出量取引制度、化石燃料賦課金の整備 ②再生資源利用の義務化や環境配慮製品設計支援
下請代金法・下請振興法改正案*	①価格転嫁の強化 ②物流取引への規制拡大 ③下請事業者の名称変更 など
労働施策総合推進法改正案	①男女間賃金差異、女性管理職比率の情報公表義務の拡大 ②ハラスメント対策の強化
公益通報者保護法改正案**	内部通報者を解雇や懲戒処分とした事業者への刑事罰

*印は経済産業、**印は消費者庁所管の法案

(2)衆議院の予算委員会での新たな方式を設置

衆議院では、今回から予算委員会での審議のあり方を見直し、「省庁別審査会」という方式が新設されます。野党側の提案で設置されたこの「省庁別審査会」は、これまで審議の終盤に行われていた「分科会」の日程を一部削ったうえで、予算委員会の序盤に1日7時間、

3日をかけてしっかりと議論するものです。各省の予算案を審議するという行為自体は一緒ですが、分科会では出身の選挙区や支援者への予算増額のために質疑時間が多く割れがちという課題がありました。また、早い時期に個別の事業ごとの議論を重ねることで、仮に予算案の修正が必要になった場合でも作業日程を確保できるという利点もあります。

立憲民主党は、この方式の新設を踏まえて党内に「本気の歳出改革」という作業チームを立ち上げました。私も、経済産業委員会と消費者委員会のチームに入り、衆議院の議員の皆さんと一緒に予算案のチェックを行うことにしています。



出典：2月5日朝日新聞

2. 組合の旗開きや労使懇談会などでご挨拶



加盟組合代表者会議での挨拶
な「労使懇談会」、さらには
JAMの中央委員会にも出席し、ご挨拶をさせていただきます。

1月は、労働組合が主催する行事が多くあります。初旬から中旬は労働組合の新年の会合(旗開き)、中旬以降は2月から始まる「春闘」交渉の前に組合の方針を会社側に説明する「労使懇談会」が開催されます。今年も、組合が催す「旗開き」や、基幹労連やJAMが主催するいろいろ



鑄鍛鋼労使懇で郡山さんと共に挨拶

3. 1月の国会見学 3組62名

今年もたくさんの方が見学に来てくださるのをお待ちしております。



全神戸製鋼労連



日本製鉄君津労組



JFE スチール本社労組

以上です